



海老名市から友人 約440人が登別を訪問

10/
3~5

白石市・海老名市・登別市 トライアングル交流ツアー

10月3日(月)～5日(水)、神奈川県海老名市の市民ツアーの一行が登別市を訪れました。

このツアーは、海老名市が、今年4月に調印した登別市、宮城県白石市、海老名市の三市による『トライアングル交流宣言』と海老名市の市制施行40周年を記念し企画したもので、応募した約440人の海老名市民が参加しました。

3日に、北海道に降り立った参加者は、市内のテーマパークを見学した後、登別温泉に到着。小笠原市長が出迎えました。

参加者は、歓迎レセプションで、郷土芸能の『熊舞』を楽しんだほか、夜には特別開催中の『地獄の谷の鬼花火』を観るなどし、登別の初日を楽しみました。

また、同日には、体育団体や町内会、日赤奉仕団など市民団体の情報交換会も行われ、海老名市、登別市双方が団体の活動状況や課題などについて意見を交わしました。

4日は、登別や洞爺湖、小樽、旭

川など4コースに分かれ道内を観光。参加者は登別のみならず北海道の魅力を満喫しました。

また、同日から内野優海老名市長と風間康静白石市長がツアーに合流。夕食会場に登場し、この交流が末永く続くよう参加者にお願いしました。

最終日の5日には、札内町で『トライアングル交流宣言』の記念植樹が行われ、参加者は今後も三市の交流が続くことを願いながら桜の木を植樹しました。

植樹後には、登別まちづくり促進期成会によるサケの千人鍋が振る舞われ、参加者は冷えた体を温かい鍋ともてなしの心で温めました。

また、日本工学院北海道専門学校では『かながわ環境大使』を務める歌手の白井貴子さんのミニライブが行われ、ツアー参加者も登別市民や同校の学生とともに鑑賞。同校の軽音楽部や鷺別中学校ギターマンダリン部との共演などを楽しみました。

登別を満喫した参加者は同日午後